

令和4年9月30日

緑小だより

10月号
横浜市立緑小学校



ふれあい 学びあい みとめあう みどりっ子

Mail : y3midori@edu.city.yokohama.jp

URL <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/midori>

実物を見る学び

副校長 津守 逸実

9月も残暑が厳しいと思っていたら、朝晩肌寒くなり秋の始まりを感じる日々となってきました。秋の心地よい風が校庭・教室を吹き抜けています。自然の風は、とても気持ち良いと、改めて感じました。

コロナ禍ではありますが、新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で、各学年とも秋の遠足・校外学習・宿泊体験学習を行えるよう、試行錯誤しながら計画を進めています。9月2日、6年生校外学習（はまぎん子ども宇宙科学館・県立歴史博物館）を皮切りに、今年度の校外学習がスタートしました。

9月13日、私は、4年生の校外学習（都筑焼却工場）の引率をしてきました。なかなか、普段、子どもたちと接することがないので久しぶりに子どもたちの良さに気づかされました。私は、4組の後ろのグループの後をついていましたが、子どもたちはさまざまところに目がいき、その度に新しい発見をしていました。例えば、どうして鴨居駅まで行くのに遠回りして行くのかわかったり、西河内公園に咲いている花のことを友達に教えてあげたりしていました。初めてグリーンラインに乗る子がいたり、電車内の、アナウンスでは「左側の扉が開きます」と言ったことに対して、進行方向の左側の扉が開くことを初めて知った子がいたりしました。都筑焼却工場に着くまでに、このようにたくさん



さんのことを学習しました。都筑焼却工場では、工場の中を案内してくれる方の説明を受けながら、巨大クレーンを実際に見たりごみが焼却されている様子をモニターで見たりしました。巨大クレーンは一つまみで児童の体重なら200人を持ち上げることができることがわかったり、都筑焼却工場では、1年間で緑区内28%＝年6億円の電力を生み出すことがわかったりしました。会議室では、都筑焼却工場ではどのようにごみ処理がされているのか、映像を見て学習しました。見学後、早速、学んだことを私に教えてくれる子がたくさんいました。

このように目をキラキラさせながら学習している子どもたちの姿をたくさん見ることができ、校外学習の良さを感じました。また、素直な子どもたちに接することができてよかったです。

さて、私自身、以前、3年間プラハ日本人学校へ赴任したことがあります。日本人学校（在外教育施設）では、他県の教員と力を合わせ、異国の地に居ても日本と同等の教育が受けられるように、子どもたちの指導にあたっています。校外学習や修学旅行も現地職員と下見に行き、日本の教育課程に少しでも沿うように企画検討しています。例えば、4年生では、現地の浄水場を見学したり、ごみがどのように回収されていたりするのかを学習しました。5年生では、自動車工場



(TPCA=ToyotaPeugeotCitroenAutomobile)に行き、車がどのように造られているのか見ることができました。6年生の修学旅行では、チェコ テレジン強制収容所跡とドイツ ドレスデン（連合国軍から絨毯爆撃を受けた都市）に行き、被害国と加害国の戦争による惨禍を知り、平和教育へとつなげました。

今回の4年生の校外学習を通して、子どもたちの思っていることに触れられたことは、とても新鮮でした。また、改めて実物を見ることの大切さにも気づかされました。

今後も、日常の学校生活をはじめ、さまざまな場面での子どもたちの学び・学び合いができるように、教職員が一致団結して学校運営を進めていきたいと思えます。保護者・地域の皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。